

異端児、コペルニクスの発想？から 日本語教育を考える

—他分野からの新しい風を求めて—

清水 泰生(同志社大学)
app@fsinet.or.jp

【要旨】

本稿で日本語教師養成講座の講義の内容を通時的に見ていった。それを踏まえて、今までに取り上げていない分野、医学、脳生理学、生理学等が重要であることを述べた。その具体例として脳と運動と日本語教育について、そして、食事、e スポーツと日本語教育について言及した。

1. 「はじめに」の前に

まず、本稿で論じるにあたって論考の背景となった 2023 年 3 月現在の私の経歴を述べたい。脳神経外科専門の医師、医学者の父。生物学者の祖父のもとで生まれ育った。現 3000m 年代別室内日本記録保持者、2016 アテネマラソン日本人トップである。マスターズスポーツ科学研究会理事として 2013 年に身体運動中の神経及び筋機能メカニクス専門の石川昌紀氏達とともにマスターズ陸上競技アスリートに神経・筋機能の測定を行った。ランニング学会前理事研究委員、公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合事業企画委員会元委員、マスターズスポーツ科学研究会委員を歴任した。

2. はじめに

1980 年後半、日本語教師養成の整備が始まり、日本語教育能力検定試験も行われるようになった。そして、その教育科目内容等が改定されて現在に至っている。本発表で、どういう科目があって、全く問題、取り上げていない（日本語教育に問題になっていない）分野があるのか、私の経歴をから見て述べてみたい。日本語教育関係者とは違った異端児の立場からコペルニクスの発想で？述べてみたい。

3. 日本語教育の科目の流れ

3. 1 日本語教育能力能力試験がないころ(1980 年後半)

1983 年留学生 10 万人計画ではじまり、日本語教育ブームが始まった。1986 年に論者の受けた日本語教師養成講座（御茶ノ水で開講された講座）は、講座の時間は 120 時間ほどで実習がなかった。講座の内容は、『日本語初歩』（国際交流基金）の教え方と音声学の基礎の座学がメインであった。

3. 2 日本語教育能力試験ができたころ

1988 年の文部省のガイドラインに基づき (財) 日本語教育振興協会が定めた「日本語教員の資格取得の基準」が、それに準じる機能を果たしている。

その基準とは、①大学での日本語教育科目の主 (副) 専攻、② (財) 日本国際教育支援協会の日本語教育能力検定試験(6)の合格、③日本語教師養成講座での 420 時間以上の教育、のいずれかを満たすこととされるが、このうち②で示された日本語教育能力検定 試験の出題範囲は、①の日本語教育科目、③の 420 時間講習の内容の参照枠として用いられ、事実上の日本語教師養成シラバスとして機能している。そのため一般の教育機関でも、日本語教育能力試験合格が日本語教師採用の応募資格とされるようになっている (岡本 2005)。

日本語教育能力試験(1988 年) がはじまり、日本語教師養成講座の 420 時間(1993 年) 設定、日本語教育振興協会設立など日本語教育機関の充実が整いつつあった。

教師養成で教えるべき理論科目の教授内容は具体的にどうかというと日本教育事典に述べていることが骨格であると考えられる。

『日本語教育事典』(1987)は、アマゾンの書籍紹介によると「音声・音韻、文法・表現、語彙・意味、語法各説、文字・表記、言語技能、教授法、視聴覚教育、機関・人」の 9 章に編集し、豊富な資料とともに必要なあらゆる事項を収録している。これを見てみると言語そのものに関することつまり、文法、語彙、意味等がメインであると言える。

一方、後述することになるが日本語教師養成講座の内容が変わる 2000 年前半以降に出た『新版日本語教育事典』を見ると言語そのものに関する以外に言語と社会、言語習得もメインであることが分かる。

『新版日本語教育事典』2005 年

「音声・音韻」「文法」「語彙・意味」「ことばと運用」「文字・表記」「ことばと社会」「言語・言語教育研究の方法」「言語習得・教授法」「教育・学習メディア」「国内の日本語教育」「海外の日本語教育」の 11 章で構成。(アマゾンの書籍紹介)

3. 3 90 年代の様子

1990 年入管法改正によって日系ブラジル人、子弟が日本に多く定住するようになり日本語教育の様子が変わってきた。子どもの日本語教育に直結するバイリンガルの問題や定住外国人に関わる異文化接触等の問題が出てきた。

日本語教員に望まれる資質能力のまとめ (1999 年「日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議」報告書より) で「日本語教員に望まれる資質・能力」が提唱された。それについて述べてみたい。簡単にまとめると以下の通りである。

- 基本：教員自身の、日本語を正確に理解し的確に運用できる能力
- それを確保した上で大切な資質能力 ・学習者に対する実践的なコミュニケーション能力・日本語ばかりでなく広く言語に対する深い関心と鋭い言語感覚・国際的な活動を行う教育者としての豊かな国際的感覚と人間性 ・自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱 日本語教員の専門性

- (1) 言語に関する知識能力外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識や理解があり、対照言語学的視点からの日本語の構造や言語の習得過程に関する知識を有する
- (2) 日本語の教授に関する知識能力 過去の研究成果や経験などを踏まえた上で、カリキュラムを作成したり、授業や教材などを分析したりする能力があり、それらの総合的知識と経験を教育現場で 実際に活用・伝達できる能力を有する
- (3) その他日本語教育の背景をなす事項についての知識理解 日本と諸外国の教育制度や文化事情に関する理解や、学習者のニーズに関する的確な把握

上記を見てみると言語に関する知識、専門性が重視されていることが分かる。ただ、言語を操る人間自身の研究、教育を行う時の周りの環境に関する科学、つまり医学、脳生理学、気候環境学等の自然科学分野については全く取り上げていない。

3. 4 2000 年以降

2000 年報告書「日本語教育のための教師養成について」で教師養成課程の内容が改正された。詳細な内容については資料の図 1 参照。「日本語教育のための教師養成について」を見ると言語そのものと言語と文化、社会、言語習得発達が柱になっていると思われる。

また、「教育人材の養成・研修のあり方について」(報告) 改訂版 (2018 年文化審議会・日本語分科会) では 2000 年に出た教育内容に関する課題として、以下のことを挙げている。

- ① 多様な教育目的や学習者のニーズ等に対応する幅広い教育内容が示されているが、様々な活動分野や役割に応じた資質・能力や教育内容は示されていない。
- ② 三つの教育領域、五つの区分とそれに対応する教育内容の例等を示しているが、必ず学習すべき内容が明確に示されていない。
- ③ 提示以来 18 年が経過していることから、大学等における教育・研究の進展や社会情勢の変化に、対応できていない。

上記のこと (①～③) が課題であるが、言語を操る人間、教育を行う時の周りの条件に関する科学、つまり、医学、脳生理学、環境学等の自然科学分野については全く取り上げていない。日本語教育関係者は、言語関係、異文化教育の出身者であって、医学、脳生理学、運動生理学等の知識や人材等に接することはほとんどないからであろう。また、日本語教育は他分野、他業種との接触を積極的に取ろうとしないように思われる。

2017 年ごろから日本において、日本語教育の国策が叫ばれ日本語教師養成の再整備、日本語教師の再研修、日本語教師国家資格化が叫ばれるようになった。日本語教師国家資格化で日本語教師養成の内容で「必須の教育内容」が提唱された。「必須の教育」は以下のように、3つの教育領域（社会・文化、教育、言語）、5つの区分（社会・文化・地域、言語と社会、言語と心理、言語と教育、言語）に分類されている。

＜必須の教育内容＞

【社会・文化・地域】

- (1)世界と日本の社会と文化 (2)日本の在留外国人施策 (3)多文化共生
(4)日本語教育史 (5)言語政策 (6)日本語の試験 (7)世界と日本の日本語教育事情

【言語と社会】

- (8)社会言語学 (9)言語政策と「ことば」 (10)コミュニケーションストラテジー
(11)待遇・敬意表現 (12)言語・非言語行動 (13)多文化・多言語主義

【言語と心理】

- (14)談話理解 (15)言語学習 (16)習得過程 (17)学習ストラテジー
(18)異文化受容・適応 (19)日本語の学習・教育の情意的側面

【言語と教育】

- (20)日本語教師の資質・能力 (21)日本語教育プログラムの理解と実践
(22)教室・言語環境の設定 (23)コースデザイン (24)教授法
(25)教材分析・作成・開発 (26)評価法 (27)授業計画 (28)教育実習
(29)中間言語分析 (30)授業分析・自己点検能力 (31)目的・対象別日本語教育法
(32)異文化間教育 (33)異文化コミュニケーション (34)コミュニケーション教育
(35)日本語教育とICT (36)著作権

【言語】

- (37)一般言語学 (38)対照言語学 (39)日本語教育のための日本語分析
(40)日本語教育のための音韻・音声体系 (41)日本語教育のための文字と表記
(42)日本語教育のための形態・語彙体系 (43)日本語教育のための文法体系
(44)日本語教育のための意味体系 (45)日本語教育のための語用論的規範
(46)受容・理解能力 (47)言語運用能力 (48)社会文化能力 (49)対人関係能力
(50)異文化調整能力

「日本語教師の資格の在り方について(報告)」13 頁より

これを見てみると言語を操る人間、教育を行う時の周りの条件に関する科学、つまり、医学、大脳生理学、気候環境学等の科学については全く取り上げていないことが分かる。

4. 日本語教育に関わる盲点となる学問分野

以上、簡潔であるが通時的に日本語教師養成に関することについて述べた。日本語教育養成に関することで、今まで関係していない分野で盲点となっている分野は何か。前述で取り上げているとおり運動生理学、医学、大脳生理学、栄養学、睡眠学等が考えられる。この事についてあとで具体的に述べてみたい。そして、話は、大きくそれるが、清水(2022a)で述べている通り政界(国政)財界に日本語教育関係者、経験者がいなかったが、今回の参議員選挙で誕生青島健太(スポーツジャーナリスト)である。

青島健太(あおしま けんた、1958年(昭和33年)4月7日-)は、日本維新の会所属の参議院議員(1期)。日本の元プロ野球選手(元ヤクルトスワローズ内野手)。野球解説者。スポーツライター、スポーツキャスター、鹿屋体育大学客員教授、流通経済大学客員教授、日本医療科学大学客員教授。日本クリケット協会理事。日本ペンクラブ会員。YouTuber。現在は東京都在住。

(中略)5年間のプロ野球生活引退後、新しい人生を模索中に、東京広尾の図書館で知り合ったオーストラリア人との会話がヒントとなり、半年間の研修の後オーストラリアへ日本語教師として渡る。

そこで知り合った人との交流を通して、厳しいプロ野球生活の中で忘れかけていたスポーツをする

喜びや、楽しみ方を思い出し、そのスポーツの素晴らしさの伝え手となることを決意し帰国。スポーツライターとして新しい道を歩き始める。現在はあらゆるメディアを通して、スポーツの醍醐味を伝えている。

(『ウィキペディア』青島健太より)

今後日本語教育を日本の政策に考えるのなら、日本語教育関係者でない国会議員に託すのではなく、日本語教育関係者の国政への進出が大切であろう。そのためには日本語教育関係者の国政進出者は、日本語教育関係だけでなく、環境、福祉等、日本語教育以外の政策の知識も大切になるであろう。

さて、話を戻して盲点となっている分野について具体的に述べてみよう。

A. 脳と記憶と日本語学習

運動生理学における脳と記憶に関する研究が2010年以降行われるようになってきた。日本語教育では、現在、ワーキングメモリー、短期記憶、長期記憶、記憶のストラテジーの紹介くらいで、脳と記憶に関することは、深く取り上げていない。これから脳科学の研究が進むと思われるので日本語教育における脳科学の研究も広く、深く行われていくであろう。ところで、運動には、大きく分けて、有酸素運動、無酸素運動がある。清水(2022a)で述べているが有酸素運動が脳と記憶に関係があると言える。清水(2022a)では有酸素運動の代表的なスポーツであるランニングによる日本語指導を提唱している。

B. 気温、湿度と日本語学習

他分野の研究によると気温・湿度と運動・労働・学習とは大いに関係があるようだ。気温上昇と記憶の関係の研究は、建築、環境工学等を中心に行われている。例をあげると次の通りである。

- 若年層(16～22歳)を対象とした温熱・空気環境の質が学習効率に及ぼす影響の検討
 - 大学講義室の学習環境に関する実態調査研究
 - 中学校の教室における温熱環境が学習効率・教授意欲に及ぼす影響
 - 気温と湿度の組み合わせ条件が人体の生理・心理反応の季節差に及ぼす影響に関する試行実験

等の研究がある。

そして、文部科学省が学校保健安全法に基づいて定めた「学校環境衛生管理マニュアル」によると教室での学習環境は次の通りである。

- 教室等の環境では温度が17度以上28度以下、
- 相対湿度が30%以上80%以下であることが望ましい
- 人が快適と感じる相対湿度は40～70%と言われており、学校環境生成基準と概ね一致であると言える。
- 相対湿度が70%以上になると、じめじめとした不快感が増し、教室内にいる子どもた

ちの集中力も妨げられる可能性が高くなる。

さらに「学校環境衛生管理マニュアル」によると湿度が高くなれば、結露やカビ、ダニが発生しやすくなり、不衛生な環境になってしまう。また、室内の湿度が高いと汗が蒸発しにくくなる。汗による体温調節機能が阻害されると、熱中症の危険性も高まるそうだ。気温、湿度と学習との関係を研究することが重要であるにもかかわらず、日本語教育特に国内の日本語教育は無頓着である。今後これらの分野の知見を授業等に取り入れる必要があるであろう。

なお、簡易冷却での新しい冷却技術が提唱されている。それを商品化して一般の人が使えるようにしたのが「コアクーラー」である。以下がコアクーラーについての宣伝文である。

マラソンや競歩のアスリートを中心に広がっている「コアクーラー」を知っていますか？「コアクーラー」は“手のひら”の血管を冷やす暑熱対策アイテムで、夏場のトレーニングはもちろん、蒸し暑い室内や、アウトドアでも活用できるとあって注目を集めています。そこで今回はさまざまなシーンで使える「コアクーラー」の効果を探ってみましょう。これまで体温を下げる方法としては、首や脇、鼠径部（そけいぶ）を冷やすのが一般的でしたが、デサントとシャープが共同開発で、手のひらを適温で冷やす新たな暑さ対策を提案しています。その名も「コアクーラー」。開発の背景や使い方についてご紹介します。

（中略）

しかし最近では、手のひらを冷やすことが効果的と言われています。

手のひらのAVA血管を冷やして“体の中心部”の体温を下げる。

手のひらには体温調節を担うAVA血管という特殊な血管があります。この部位を冷やすことで冷えた血液が体内を巡るため、深部体温（体の中心部の体温）を下げるができます。

“適温 12℃”を保つには氷や保冷剤では不可能？

冷やすと言っても、ただ冷やせばいいわけではなく、適温で冷やすことが大切です。氷や保冷剤では冷たすぎて血管が収縮してしまい、深部体温を下げるできません。シャープが開発した適温蓄冷材なら、冷たすぎずマイルドな冷却温度（12℃）を保つことができ、気持ちのよい快適な冷たさで効果的に深部体温を下げられます。

（中略）

生ものや食品などを冷やす際に用いられる一般的な保冷剤を握ると冷たくて手に痛みを感じませんか？人は皮膚表面温度を冷やし過ぎると、冷刺激を受けて痛みを感じると言われています。一方で、冷却後の実験データ右図にある12℃の冷却パックを握った後の温度を見ると、痛みを感じにくく、気持ちのよい温度で手のひらを快適な冷たさで維持することができます。

（「夏は“手のひら”を冷やして暑さ対策を！アスリートも着用、ランニングは「コアクーラー」が効果的」：<https://www.descente.co.jp/media/brand/descente/3828/>より）

手のひらを冷やすことが有益であることが述べている。これまで体温を下げる方法としては、首や脇、鼠径部（そけいぶ）を冷やすのが一般的であったが、コアクーラーは、手のひらを適温で冷やす新たな暑さ対策を提案している。これを夏の日本語学習の際に用いると学習が促進されるのではないかと思う。

C. 食事と学習

清水(2022a)で言及したが、日本語教師は食べ物が好きな人が多い。しかし、運動、スポーツはあまりしない。日本語教育関係者は、Facebook に食べ物をよく載せるが、食べ物の成分や栄養素分析はしない。

マラソン界では、カーボローリングがよく言われている。カーボローリングは、グリコーゲンに糖を蓄えることである。なお、グリコーゲンに蓄えられる糖の量は少ない。なお、方法には古典式と改良式がある。

記憶力をはじめとする脳機能は、食べ物の内容や質によって大きく左右されるものである。児島伸彦氏は、脳の「シナプスの可塑性（かそせい）」を保つ条件のひとつとして、食生活のバランスを挙げている。シナプス可塑性とは、経験や学習によって、脳の神経細胞同士の結びつきが柔軟に変化する性質のことである。シナプス可塑性が低いと、新しいことを覚えたり、変化する環境に対応したりといったことが難しいため、脳を健康に保つには、正しい食習慣・生活習慣を心がける必要がある。なお、食事と脳の関連を調査した研究には、オランダ・エラスムス大学の Meike Vernooij 教授らによる、2018 年のものがある。45 歳以上の男女 4,213 人の食事の質を、オランダ健康審議会の食事ガイドラインに基づき、0～14 点で評価した。調査の結果、食事の質が高い人ほど脳の容積が大きかったのだそう。「最も健康的な食事」をしていた人と、「最も不健康な食事」の人では、脳容積に約 2ml の差があったとのことである。（「記憶力がアップする食べ物 5 選。みんな大好き「バナナ」もあります」：<https://studyhacker.net/memory-food> より、文体を変更した）

以上のことから学習と食事は、関係がありそうであるが、日本語教育は全く問題にしていないし論者が知る限りこのことについて言及したものはない。ゆえに、この分野も研究を進めていく価値があるだろう。

D. e スポーツと日本語教育

e スポーツは日本語学習に有効であるかどうか。清水(2022a)によると e スポーツは、高齢者にとって良い運動のようである。

清水(2022a)でも述べたが、e スポーツで英会話、英語の受験対策行われている。『Tazan No. 850 2023 年 2 月 23 日』の「e スポーツが脳にもたらす作用」によれば幼稚園でも e スポーツはカリキュラムになっており、そしてコミュニケーション力や語学力の上達など、教育的な視点からも注目が集まっているのである。今後、e スポーツでの英会話、英語の受験対策を基に日本語教育でどう応用するのかを考えてみたい。

5. まとめ

以上、日本語教育の関係のない分野だと思われる医学、建築工学等も大いに関係があることを述べた。医学との結びつきは「やさしい日本語」だけではなく、工学も言語景観だけではない。脳および気温、湿度、教室（建築物）と学習との影響は非常にあるにもかかわらず、日本語教育では全く問題にしていなかった。今後考察していかなければならない分野であろう。特に日本の夏をいかに克服して学習するかが日本語を学習する際に重要である。

日本語教育、言語関係者も運動、健康、環境などの自然科学の分野に興味を持つことが大切である。それから「ゲームと日本語教育」の分野は、アニメに関することだけではなく e スポーツも日本語教

育に取り入れることも大切であろう。

今後の課題は、本稿で取り上げた専門分野（特に自然科学分野）の知見を駆使した留学生教育、日本語教育は教育上有効なのか。例えば、外国人学習者、留学生にとって良い食事と思われる食事（清水（2015）が言う日本語教育食）を取ることで日本語習得が促進するかどうかなどである。それらについて学習者を実験協力者として実験をし、そのデータを質、量とも充実させ確固たる結論を導き出すように努力する必要があるだろう。

参考文献

- 石垣秀圭他（2001）『日本建築学会計画系論文集 66 巻 543 号』
- 鵜飼翔太他（2012）『日本建築学会東海支部研究報告集（50）』
- 岡本佐智子（2005）「日本語教師養成の現状と課題」『北海道文教大学 論集 6』
- カーティス・ケリー（2021）「神経科学と言語学習」『日本語教育の新しい地図 専門知識を書き換える』ひつじ書房
- 後藤伴延他（2010）「若年層（16～22 歳）を対象とした温熱・空気環境の質が学習効率に及ぼす影響の検討」『日本建築学会環境系論文集』
- 重森健太（2016）「走れば脳は強くなる」クロスメディア・パブリッシング
- 清水泰生（2015）「他分野と日本語教育 一 国語科教育、幼児教育、スポーツ、医療分野等の他分野のよさを取り入れて」『日本語教育方法研究会誌 22 巻 2 号』
- 清水泰生（2019）「スポーツ言語学は日本語、日本語教育を救えるか」『日本語教育連絡会議論文集 Vol32』
- 清水泰生（2022a）「留学生教育・日本語教育における運動とは...課題と提言..」『2022 年ブカレスト大 学日本語教育シンポジウム Proceedings 論文集』
- 清水泰生（2022b）「日本における日本語教師養成の文法、表記、語彙の講義の変遷について」『2022 CAJLE Annual Conference Proceedings』
- 宋 城基（2013）「大学講義室の学習環境に関する実態調査研究」広島工業大学紀要研究編 第 47 巻
- 館岡洋子編（2021）『日本語教師の専門性を考える』ココ出版
- 日本語教育学会編（1987）『日本語教育事典』大修館
- 日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』大修館
- J. レイティ他（2009）『脳を鍛えるには運動しかない！最新科学でわかった脳細胞の増やし方』NHK 出版
- 「e スポーツが脳にもたらす作用」『Tazan No. 850 2023 年 2 月 23 日』マガジンハウス
- 「運動+認知機能トレーニング 有酸素運動を可視化するシステムを開発 東北大学と日立的共同ベンチャー」(<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2019/008409.php> 2022 年 8 月 20 日採集)
- 「運動は脳の記憶領域を活性化させ、運動を継続すると記憶に良い影響を与えるという可能性がある」(<https://gigazine.net/news/20190601-exercise-boost-semantic-memory/> 2022 年 8 月 20 日採集)
- 「学校環境衛生管理マニュアル(平成 30 年度改訂版)」(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/31/1292465_01.pdf 2022 年 8 月 20 日採集)
- 「記憶力がアップする食べ物 5 選。みんな大好き「バナナ」もあります」(<https://studyhacker.net/memory-food> 2022 年 8 月 20 日採集)

「楽しくできる「インターバル運動」で脳を活性化 体力が低下した人にも有用」

(<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2018/007086.php> 2022 年 8 月 20 日採集)

「夏は“手のひら”を冷やして暑さ対策を！アスリートも着用、ランニングは「コアクーラー」が効果的」

(<https://www.descente.co.jp/media/brand/descente/3828/> 2022 年 8 月 20 日採集)

「日本語教育のための教員養成について」

(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_suishin/nihongokyoikyosei/ 2022 年 8 月 20 日採集)

「日本語教師の資格の在り方について(報告)」

(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92083701_01.pdf 2022 年 8 月 20 日採集)

「日本語教員等の養成・研修に関する調査研究協力者会議」

(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaite/nihongo_kyoin/ 2022 年 8 月 20 日採集)

「日本語教育人材の養成・研修の在り方について (報告)」について

(https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/1401908.html 2022 年 8 月 20 日採集)

日本メディカル心理セラピー協会 (<https://www.domap.net/> 2022 年 8 月 20 日採集)「リズム運動」でメン

タル強化を(<https://www.healthcare.omron.co.jp/resource/column/life/113.html> 2022 年 8 月 20 日採集)

「脳細胞が増える運動「3つの条件」」(<https://president.jp/articles/-/10350> 2022 年 8 月 20 日採集)

領域	区分	内 容	キーワード
コミュニケーション 教育に関わる領域 言語に関わる領域	社会・文化・地域	世界と日本	歴史/文化/文明/社会/教育/哲学/国際関係/日本事情/日本文学……
		異文化接触	国際協力/文化交流/留学生政策/移民・難民政策/研修生受入政策/外国人児童生徒/帰国児童生徒/地域協力/精神衛生……
		日本語教育の歴史と現状	日本語教育史/言語政策/教員養成/学習者の多様化/教育哲学/学習者の推移/日本語試験/各国語試験/世界各地域の日本語教育事情/日本各地域の日本語教育事情……
	言語と社会	言語と社会の関係	ことばと文化/社会言語学/社会文化能力/言語接触/言語管理/言語政策/言語社会学/教育哲学/教育社会学/教育制度……
		言語使用と社会	言語変種/ジェンダー差・世代差/地域言語/待遇・ポライトネス/言語・非言語行動/コミュニケーション・ストラテジー/地域生活関連情報……
		異文化コミュニケーションと社会	異文化受容・適応/言語・文化相対主義/自文化(自民族)中心主義/アイデンティティ/多文化主義/異文化間力/言語イデオロギ/言語選択……
	言語と心理	言語理解の過程	言語理解/談話理解/予測・推測能力/記憶/視点/言語学習……
		言語習得・発達	幼児言語/習得過程(第一言語・第二言語)/中間言語/言語喪失/バイリンガリズム/学習過程/学習者対/学習ストラテジー……
		異文化理解と心理	異文化間心理学/社会的民族主義/教育心理/日本語の学習・教育の情意的側面……
	言語と教育	言語教育法・実習	実践的知識/実践的能力/自己点検能力/カリキュラム/コースデザイン/教室活動/教授法/評価法/学習者情報/教育実習/教育環境/地域別・年齢別日本語教育法/教育情報/ニーズ分析/誤用分析/教材分析・開発……
		異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育/多文化教育/国際・比較教育/国際理解教育/コミュニケーション教育/スピーチ・コミュニケーション/異文化コミュニケーション/異文化コミュニケーション/異文化心理/教育心理/言語間対照/学習者の権利……
		言語教育と情報	教材開発/教材選択/教育工学/工学/統計処理/メディア・リテラシー/情報リテラシー/マルチメディア……
言語	言語	言語の構造一般	一般言語学/世界の諸言語/言語の類型/音声の類型/形態(語彙)の類型/統語的類型/意味論的類型/語用論的類型/音声と文法……
		日本語の構造	日本語の系統/日本語の構造/音韻体系/形態・語彙体系/文法体系/意味体系/語用論的規範/表記/日本語史……
		言語研究	理論言語学/応用言語学/情報学/社会言語学/心理言語学/認知言語学/言語地理学/対照言語学/計量言語学/歴史言語学/コミュニケーション学……
コミュニケーション能力	コミュニケーション能力	受容・理解能力/表出能力/言語運用能力/談話構成能力/議論能力/社会文化能力/対人関係能力/異文化調整能力……	4技能/聴解能力(音聞)/プレゼンテーション/対人関係構築・維持/関係構築/関係維持/日本語能力/外国語能力……

図 1